福生市郷土資料室特別企画展示

日本近代文人の遺蹟

会期・昭和五十七年一月二十七日(水)より三月一日(月)まで
(火曜・祝日は休館日)

福沢諭吉
天保五(一八三四)～明治三四(一九〇一)
思想家

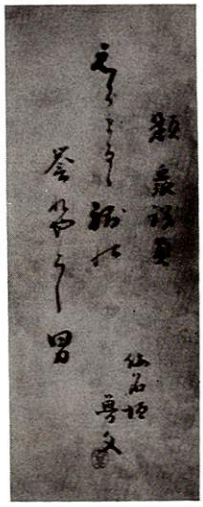
「虚　心」

尾崎紅葉
慶応三(一八六七)
～明治三六(一九〇三)
小説家

「厨富ミて
干鱈ニ
ならふ
大根かな
十千万
(紅葉)」

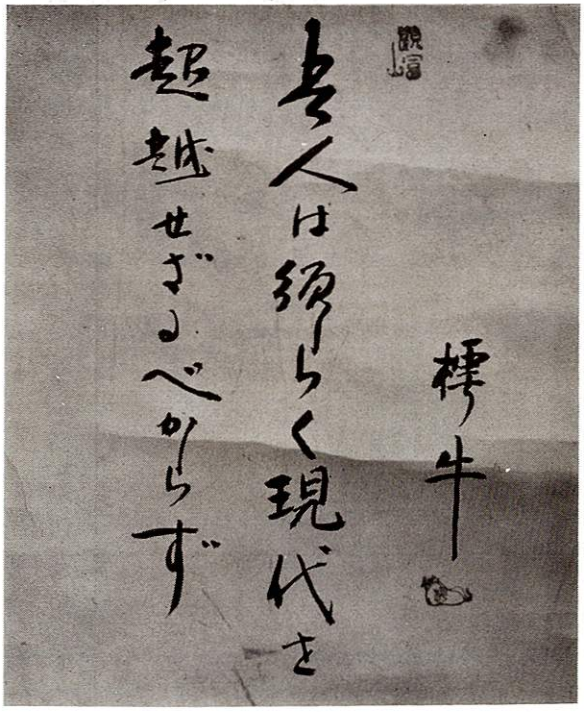
仮名垣魯文
文政十二(一八二九)～明治二七(一八九四)
戯作者

「題衆議員
えらまるゝ祝の
誉れやとし男　」



巌谷小波
明治三(一八七〇)～昭和八(一九三三)
小説家

「乳母ノ里
草餅色に
霞みけり」

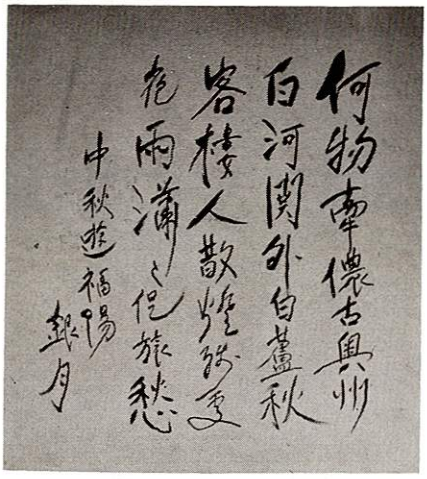


高山樗牛
明治四(一八七一)～明治三五(一九〇二)
小説家

「吾人は須らく現代を
超越せざるべからず」

永井荷風
明治十二(一八七九)
～昭和三四(一九五九)
小説家

「芍薬や机の上の紅楼夢」

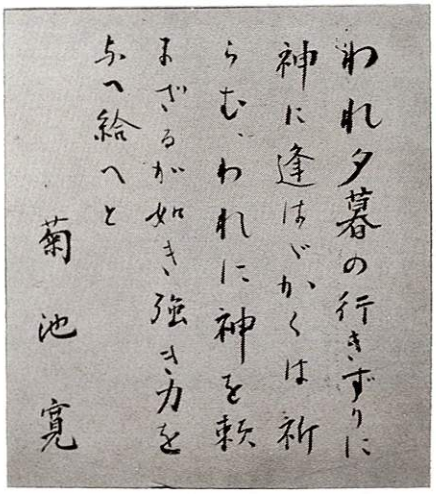


伊藤銀月
明治四(一八七一)
～昭和一九(一九四四)
小説家

「何物牽儂古奥州
白河関外白蘆秋
客楼人散燈残夜
夜雨蕭々促旅愁
中秋遊福陽」

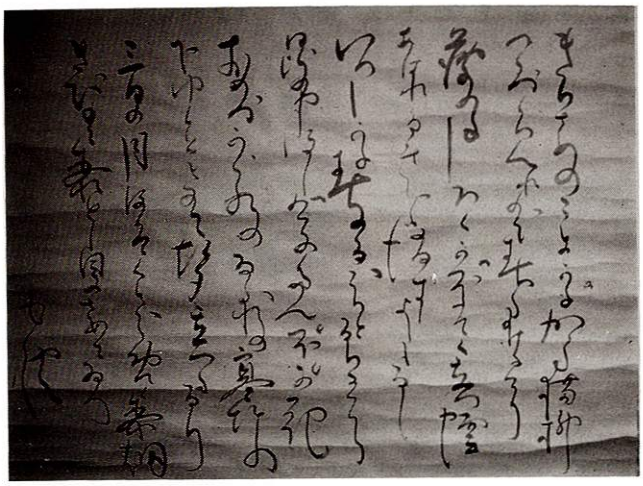
夏目漱石
慶応三(一八六七)～大正五(一九一六)
小説家

「秋月揚明暉」



菊地　寛
明治二一(一八八八)
～昭和二三(一九四八)
小説家

「われ夕暮の行きずりに
神に逢はゞかくは祈
らむわれに神を頼
まざるが如き強き力を
与へ給へと　」

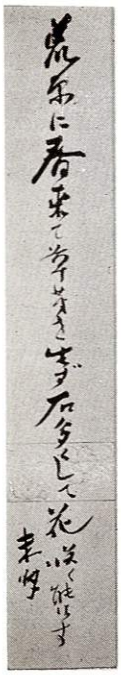


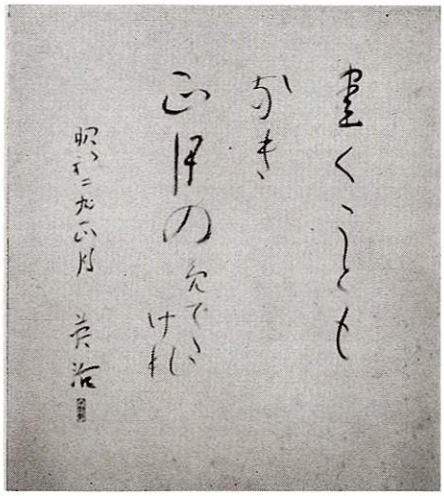
北原白秋
明治一八(一八八五)
～昭和一七(一九四二)
歌人

「きりさめのこまかにかゝる猫柳
つくづく見れば春たけにけり
薄のに白くかぼそく立つ煙
あはれなれども消すよしもなし
いつしかに春のなごりとなりにけり
昆布ほしばのたんぽぽの花
おのづから水のながれの寒竹の
下ゆくときは静立つるなり
三日の月ほそくきらめく黍畑
きびは黍とし目のさめてゐつ
」

小川未明
明治一五(一八八二)～昭和三六(一九六一)
小説家

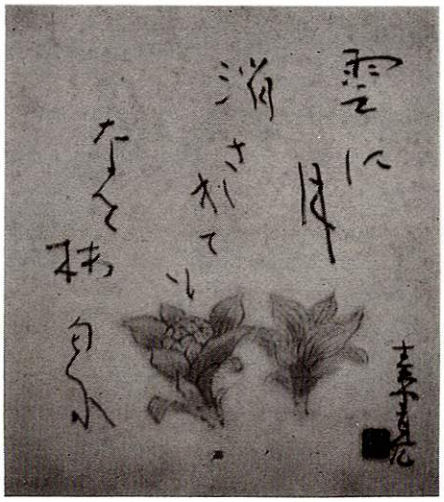
「荒原に春来て草芽を生ず
石多くして花吹く能はず」





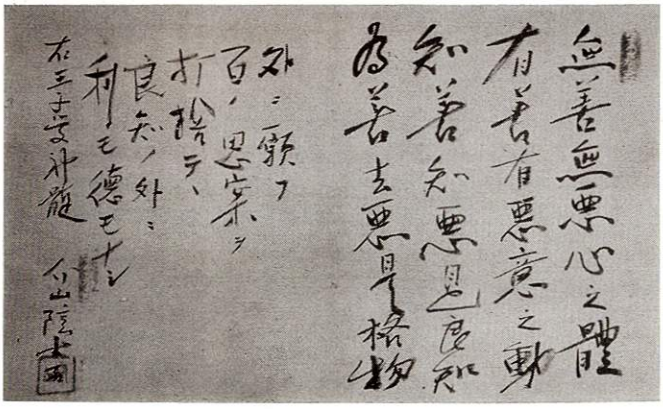
吉川英治
明治二五（一八九二）
～昭和三七（一九六二）
小説家

「書くことも
なき
正月のめでた
けれ」



吉川素亮
画家・吉川英治弟

「雲に月
消されても
なを梅匂ふ　」



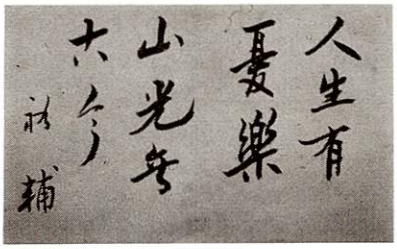
中里介山
明治一八（一八八五）
～昭和一九（一九四四）
小説家

「無善無悪心之體
有善有悪意之動
知善知悪是良知
為善去悪是格物
外ニ願フ
百ノ思案ヲ
打捨テ、
良知ノ外ニ
利モ徳モナシ
右王子学神髄　」

『大菩薩峠』挿絵
「裏宿七兵衛」
（中村岳陵・画）

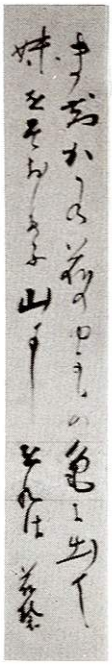
鶴見祐輔
明治一八（一八八五）
～昭和四八（一九七四）
小説家

「人生有
憂楽
山光無
古今」



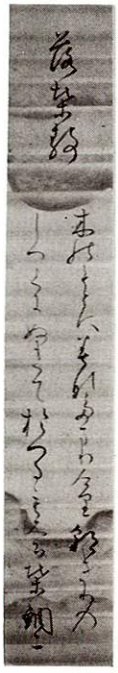
田山花袋
明治四（一八七二）～昭和五（一九三〇）
小説家

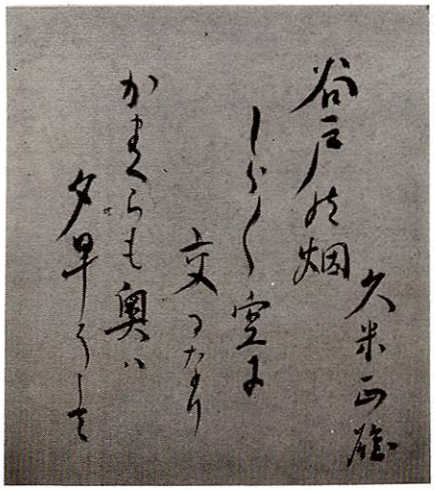
「まぢかにの花のゆふ日の色に出て
妹をぞおもふ山にしをれば　」



大口鯛二
元治一（一八六四）～大正九（一九二〇）
歌人

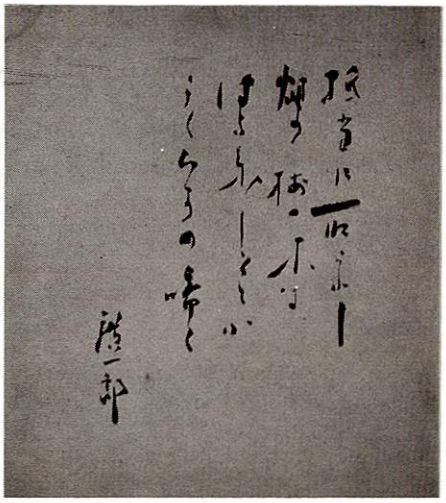
「落葉静　木のもとにみなたまりけり朝きりの
しづくにぬれておつるもみぢ葉　」





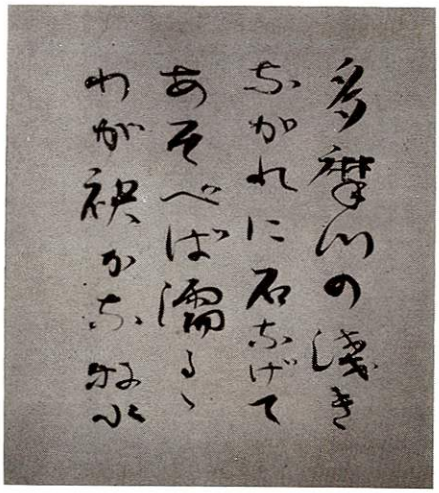
久米正雄
明治二四（一八九一）
～昭和二七（一九五二）
小説家

「谷戸の烟
しら〳〵空に
交るなり
かまくらも奥ハ
夕早うして　」



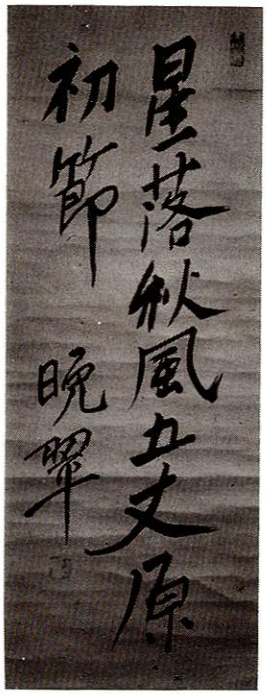
前田河廣一郎
明治二一（一八八八）
～昭和三二（一九五七）
小説家

「抵当に取られし
畑の梅の木に
はる来しととふ
うぐいすの啼く」



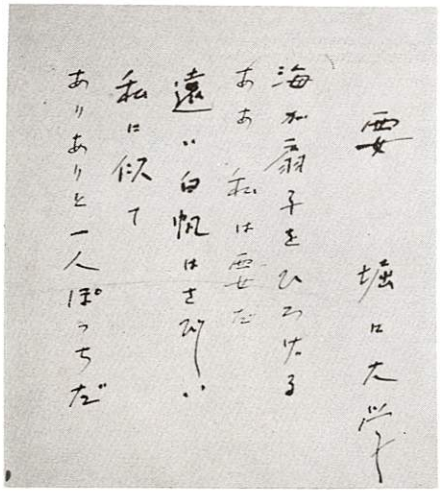
若山牧水
明治一八(一八八五)
～昭和三(一九二八)
歌人

「多摩川の浅き
ながれに石なげて
あそべば濡るゝ
わが袂かな」



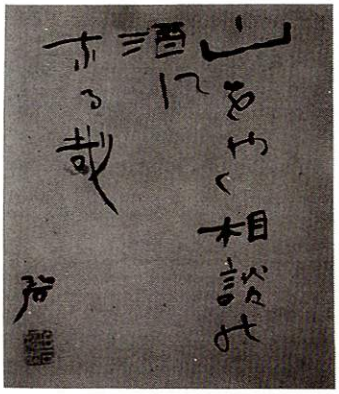
土井晩翠
明治四(一八七一)～昭和二七(一九五二)
詩人

「星落秋風五丈原初節」



堀口大学
明治二五(一八九二)
～昭和五(一九三〇)
詩人

「　要
海が扇子をひろげる
ああ　私は要だ
遠い白帆はさびしい
私に似て
ありありと一人ぼっちだ」



河東碧梧桐
明治六(一八七三)
～昭和一二(一九二六)
俳人

「山をやく相談の
酒に
なる哉」

出品目録

福沢諭吉　幅　「虚心」
仮名垣魯文　筆蹟　「えらまるゝ……」
徳富蘇峰　色紙　「独坐大雄峯」
　　幅　「平歩青天」
尾崎紅葉　書画帖　「厨富ミて……」
内田魯庵　原稿　『イバーネズの日本漫遊記其他』
巌谷小波　色紙　「乳母の里……」
高山樗牛　筆蹟　「吾人は須らく……」
　　書簡
前田曙山　色紙　「夏の露……」
田山花袋　短冊　「まぢかの花の……」
永井荷風　短冊　「芍薬や……」
鈴木三重吉　短冊　「二人して……」
伊藤銀月　色紙　「中秋遊福陽」
夏目漱石　短冊　「秋月揚明暉」
小寺菊子　色紙　「陽の下で見る月見草……」
小寺建吉　色紙画　「海上遠望」
武者小路実篤　色紙　「この道より……」
菊地寛　色紙　「われ夕暮の……」
吉田弦二郎　色紙　「小鳥らに……」
中里介山　幅　「陽明王子四言教」
　　色紙　「結髪事遠遊……」
　　原稿
中村岳陵　挿絵　『大菩薩峠』「裏宿七兵衛」
宮崎安右衛門　色紙　「いろは……」
久米正雄　色紙　「谷戸の畑……」
小川未明　短冊　「荒原に……」
矢田挿雲　短冊　「順々に……」
前田河廣一郎　色紙　「抵当に……」
宮地嘉六　短冊　「音羽屋の……」
村松梢風　幅　「夏草の……」
吉川英治　色紙　「書くこともなき……」
吉川素亮　色紙　「雲に月……」
鶴見祐輔　筆蹟　「人生有憂楽……」

岡本かの子　巻子　「観音経筆写巻」
岡本一平　色紙画　「痩舟の図」
佐々木信綱　短冊　「拙翁か……」
波　忠秋　短冊　「ひさかたの……」
千葉胤明　色紙　「時雨ひとつ……」
九條武子　短冊　「うららかに……」
柳原白蓮　短冊　「九條武子短冊添書」
　　短冊　「われわこゝに……」
　　書簡
宮崎龍介　短冊　「なまけものと……」
北原白秋　幅　「きりさめの……」
与謝野晶子　色紙　「唯二つ……」
尾上柴舟　画讃　「わかやとの……」
　　原稿　「三十六人家集」
大口鯛二　短冊　「木のもとに……」
前田夕暮　短冊　「まひる日の……」
若山牧水　色紙　「多摩川の……」
　　色紙　『印譜』
若山喜志子　色紙　「峯まろき……」
　　色紙　「福生松原庵をはじめて訪ひて」
島木赤彦　短冊　「落葉松の……」
上田敏　書簡
土井晩翠　幅　「星落秋風五丈原初節」
国府犀東　色紙　「自家肖像の詩」
室生犀星　色紙　「いが栗の……」
白鳥省吾　短冊　「吾は想ふ……」
佐藤春夫　色紙　「ふるさとの……」
　　原稿　『警笛』
勝田香月　色紙　「自作小唄『悶之』」
堀口大学　色紙　「要」
野口雨情　短冊　「明日は雨……」
落合東郭　幅　「十丈長松伴……」
河東碧梧桐　色紙　「山をやく……」
　　幅　「散残った……」
内藤鳴雪　幅　「補陀落や……」
星野麦人　色紙　「はつ日出……」

出品資料は、森田崇旦氏（福生四五五）より借用を受けました。
ご協力、厚く御礼申し上げます。

特別企画展示

日本近代文人の遺蹟

会期　昭和五十七年一月二十七日㈬
　　三月一日㈪
会場　福生市郷土資料室
主催　福生市教育委員会